

# 東海道五拾参次

橋本 たねひろ

## 41、宮一熱田神事 尾張国・愛知県名古屋市熱田区

鳴海から6.5 kmで尾張国宮宿に着く、翌日は長距離の旅路なのでここで一泊しましょうか。

ちょうど祭りの最中、見物しましょう。

副題に熱田神事とありますが、熱田神宮にこのような祭礼はないらしい、歌川広重は何を根拠にこの絵を描いたのか謎ですが、美濃地方には飾り立てた農耕馬を神社に奉納する「馬の塔」(おまん)という祭礼があり、今も姿を変えて美濃の一部に残っているそう。絵は暴れ馬に引きずられる有松紋りの半纏を着た男達の男壮な姿、火を焚いて迎える町衆、見物する旅人、右を押さえる熱田神宮の大きな鳥居の図です。



## 42、桑名一七里渡口 伊勢国・三重県桑名市

宮宿から伊勢湾を海路27.5 km、「七里の渡し」と呼ばれた渡し船は、伊勢国桑名の湊に入ります。

絵は2艘の渡し船が帆を下ろし桑名に彼岸の準備をしており、乗客の顔が数人小さく見えています。

沖には千石船が走り、右に桑名城別名扇城が見えますが、今は石垣を残し公園になっています。

絵にはないものの、右下隅の地面に伊勢神宮の一の鳥居が立っており、その鳥居下から眺めた図です。桑名名物は今も焼きハマグリで「その手は桑名の焼き蛤」はよく知られた言葉遊びです。



## 43、四日市一三重川 伊勢国・三重県四日市市

三重川を渡る旅人を突風が襲う、合羽がまくれあがり、橋の手前の旅人は笠を飛ばされ、転がる笠を慌てて追いかけている、手前に川舟がもやわれ、木々も大きく揺らいでいる、奥に四日市の湊が見えています。この橋を渡ると桑名から12.7 kmの四日市宿に着きます。

